

# 『丹堂川水辺施設』整備

梅田せせらぎ会 代表 小島秀治郎  
滋賀県守山市環境生活部環境政策課 課長 鈴木 文男

## 1. はじめに

守山市は滋賀県の南部に位置し、日本一大きな湖・琵琶湖の南端部に接しています。JR東海道本線で京都まで23分、大阪まで53分のところであり、人口は7万6千人余りです。古くは中山道の宿場町として栄え、現在も京阪地域への通勤エリアとして人口増加を続けています。その一方で、豊かな自然も残されており、国の天然記念物にも指定されたゲンジボタルが舞う市街地の河川には、毎年多くの見物客が訪れています。また、のどかに広がる田園地帯では、近江米やもりやまメロンなどの農作物が生産されています。市内には県内最長一級河川野洲川やそれらを水源とする多くの河川が流れており、琵琶湖へと続く水辺には、数々の生物が生息しています。

## 2. 丹堂川について

丹堂川（たんどがわ）はJR守山駅近くの梅田町を流れる普通河川で、駅前の繁華街を流れる川でありながら、豊かな水と多くの生物が見られることが特徴です。名前の由来には諸説がありますが、「丹堂山正福寺」からとったとされる説と、湛渡（たんど）の湿地・湧水地区の弁天島の天女と高畑の大蛇（オロチ）との悲恋伝説に由来するとされる説とがあり、この悲恋伝説は地域の火祭り（松明）のおこないとして現在に伝えられています。



写真-1 丹堂川が横切る守山駅前の商店街

かつては、ここでも多くのゲンジボタルが見られ、夏先には夜目にも川面がそれと分かる「蛍光」が映し出され、地域の人々の目を楽しませていました。

しかし、人口増加や都市化、工業の振興などによって、河川環境が悪化し、一時は見る影がない状態

でした。そこで、地元梅田町において「丹堂川を復活させたい」という気運が高まり、梅田自治会内に「梅田せせらぎ会」が立ち上げられ、清掃活動、水辺の花壇づくり、川戸と呼ばれる親水性階段の設置、生物の観察会などの開催を通じて、徐々に豊かな水辺環境が戻ってきました。



写真-2 ゲンジボタル

## 3. 水辺施設の整備

地元梅田町において、丹堂川により高いアメニティを求める声上がり、県内外の視察や勉強会を通じて、コンクリート三面張りに代替するものを作りたい、より自然で親水性の高い水辺を作りたいという意見がまとまりました。そして、市民、行政、NPO、専門家など関係者で協議を重ねた結果、河川の底面と壁面を自然に近い環境に整える「木工沈床（もっこうちんしょう）」及び「多孔質（たこうしつ）フィルム」を設置することになりました。これらの施設を、(財)リバーフロント整備センターが(財)日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備していただきました。

## 4. 施設説明

丹堂川における水辺施設は、「木工沈床」と「多孔質フィルム」から成ります。

「木工沈床」とは、コンクリートの川底を掘り下げ、そこに割石を敷き詰めたものです。これによって、河道中央部が下がって水深が増し、渇水期においても魚が遡上できるようになります。また、素材間の隙間は多孔性に富み、ゲンジボタルの幼虫など水生生物の生息場所（お宿）として利用されます。更に、水を浄化する効果も期待でき

ます。こうしたことから、木工沈床を整備エリア上流部分の60メートルに亘って設置しました。

「多孔質フィルム」とは、コンクリートの壁面に張り付けるボードで、表面には天然石による多孔質のでこぼこが付いています。そのままでも自然に近い美しい景観を作ることができますが、さらに、保温性・保湿性に優れているため、コケや草などを生やし、壁面を緑化させることができます。緑化した壁面は、昆虫等の生物の生息場所としても適した環境になります。こうしたことから、多孔質フィルムを整備エリア下流部分26メートルの両岸壁に設置しました。



写真-3 木工沈床設置工事の様子



写真-4 木工沈床



写真-5 多孔質フィルム

## 5. 整備効果

施設を整備して1年が経ち、次第に周囲の環境にもなじんできました。「木工沈床」設置ゾーンでは、常時流水があることで上流への魚の遡上が増えました。石の表面には水苔や珪藻類が付着し、それらをついばむ魚の姿が見られ、カワムツやモロコ、フナのほか、5～6月頃にはアユの姿も見られました。また、木工沈床の割石に詰まった砂礫のおかげで、カワナ、タニシ等貝類が多数繁殖し、石の裏にはウズムシやヒル類も生息しています。更には、これまで見られなかった野鳥も出現するようになり、夏ごろにはハクセキレイやカワセミなどが飛んでいる姿が目撃されました。また、「多孔質フィルム」設置ゾーンでは、草やコケが徐々に茂り出しており、これから更に緑が増えていくことが期待されます。



写真-6 丹堂川水辺施設の銘板

施設を整備したことにより、近隣の市からも興味を持たれ、しばしば施設の視察や質問を受けています。自分たちが守り育てた川が有名になってくれることはうれしいものです。しかし、何よりもうれしいのは、地域の子ども達が丹堂川の水辺で魚を追ったり、割石をひっくり返して生き物を探したり、石の上を飛び跳ねて遊んだりしている姿が見られるようになったことです。時には中学生が遊ぶ姿も見かけられます。今後は、市のシンボルであるホテルが住み良い河川となるよう、河川水質の回復のほか、川岸付近における夜間の静寂、照明強度の調整等必要な対策を検討し、市民の憩いの場となる丹堂川づくりを進めていきます。